

矢作川流域圏懇談会通信

R3 フィールドワーク vol.2



発行日：令和3年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆恵那市飯地町の太陽光発電施設の現状を学びました！

恵那市飯地町の森林を破壊して進行する太陽光発電施設を訪問し、建設上の問題と地域の人々の生活への影響を確認しました。

日時：令和3年10月2日（土）

場所：①福原尾A太陽光発電所（建設中） ②福原尾D太陽光発電所（稼働中）
③杉之沢太陽光発電所（13MW稼働中） ④石ヶ花太陽光発電所（稼働中・計画中） ⑤大根第一太陽光発電所（計画中）

案内：高野雅夫 教授（名古屋大学大学院環境学研究科）

額 領 則 幸 代 表（飯地町の自然を守る会）、別府伸一 区長（飯地財産区）

参加者：15名（事務局を含む）



◆フィールドワークの記録



▼ 額領代表



▲ 別府区長

▲ 高野教授

2012年に再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法が施行されてから、日本では急激に太陽光発電が普及しました。平地の適地はすぐに枯渇し、現在は農地でのソーラーシェアリングと山地での開発が進んでいます。恵那市飯地町は標高600mの高原の町ですが、すでに12haの森林を伐採・造成した13MWのメガソーラー発電所が稼働しています。

ここでは水田に入れる水が枯渇したり大雨の際に出水する被害が発生しています。さらに10か所、合計約10haの開発が計画されています。その実態は、地主に無断で売電認可を取って地上げのようにして土地を取得し、住民との協議に誠意を見せず、事業を強行する事業者の姿があります。恵那市は条例を制定していますが、止めることは難しい状況で、国レベルの対応が強く求められます。世界でも例を見ない森林破壊が進んでいる現在、その最前線で起こっていることを紹介します。

福原尾A太陽光発電所（建設中）



木曾川に向かって大きく傾斜し、眼下に栃久保の集落を抱えている。直下が土砂災害特別警戒区域となっている条件下で「皆伐」されていた。

杉之沢太陽光発電所（稼働中）



地面はモルタルで覆われ、雨水が全く浸透しない設計。雨水は直下の貯水池にたまり、その下の樹林に放出されていた。



建設により湧水被害も出水被害も生じている。出水被害防止のために設置された貯水池と排水路だが、容量が足りていない。

石ヶ花太陽光発電所（稼働・計画中）



太陽光発電がブームになる前に建設された、この地域では最も古い発電所である。草本類が繁茂し、管理が行き届いていないことがわかる。

大根第一太陽光発電所（計画中）



この地域は、すり鉢状の集水域になっていて、集水域の上部で太陽光発電の建設計画が進んでいる（写真の山林）。



下流側の水田等の立地に加え、直ぐ下流域が土砂災害特別警戒区域にあたることから、出水による影響が懸念されている。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

